

令和元年5月29日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04468

研究課題名(和文)戦後教育改革におけるジェンダー秩序の再編に関する研究

研究課題名(英文)A study on the restructure of gender order in the post WW2 educational reform

研究代表者

小山 静子(KOYAMA, Shizuko)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授

研究者番号：40225595

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦後教育改革によって再編された中等教育に焦点を絞り、男女共学/男女別学の高等学校の成立過程におけるジェンダー観のありようを、実証的に考察することを目的とするものである。というのも、戦後、教育機会の男女平等が達成され、戦前にはなかった男女共学も制度化されるなど、中等教育には大きな変容がもたらされたからである。

そのため、全国12地域を取り上げ、公立高等学校においてどのようにして共学が実現し、あるいは別学が存続したのかを検討した。その結果、それぞれの地域における歴史的社会的状況の相違や地方軍政部の方針の違いなどが、公立高等学校の教育を規定していたこと、が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦前の中等教育は男女別学体制であったが、戦後教育改革によって、新制高等学校は一部の学校が男女別学を存続させたものの、多くは男女共学化した。それがどのような過程を経て行われたのか、そしてそこにはどのようなジェンダー観が存在していたのかを、公立高等学校を中心に明らかにしたのが本研究である。そしてこのことは、教育におけるジェンダーの不平等が、どのようなものとして形成されたのかを歴史的に明らかにするものでもある。そういう意味で、本研究を通して教育におけるジェンダーの平等の内実を考察することができるのであり、ここに本研究の社会的意義が存在すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify the condition of gender perspective in the process of establishing the single sex / co-educational schooling system in Japanese secondary education that has been restructured by the post war educational reform. After the WWII, several modifications have been brought in the secondary education, i.e. gender equality in educational opportunities achieved, and co-educational system institutionalized.

For that purpose, this research examined public high schools in 12 regions in the following two aspects: how the co-education has been realized, how the single sex education continued existing. The research revealed that each region had different historical and social background, as well as the policy of local military government. It became clear that such factors regulated the education of public high schools.

研究分野：教育学

キーワード：男女共学 男女別学 ジェンダー 新制高等学校

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、戦後教育史に関する研究が盛んになってきているとはいえ、それらにおいては文部省の教育政策の解明が中心的なテーマとなっている。そのため、中央の政策の浸透過程についての研究や、より実態に即した、各地域における教育政策の展開状況を明らかにしようとする研究が手薄な状態にある。その結果、戦後教育改革によって大きな変革をもたらされた中等教育におけるジェンダーの問題も、ほとんど考察が加えられていないのが現状である。本研究は、このような研究状況を打破すべく、戦前の男女別学体制の下にあった中等教育が、性別に関わりなく制度的に一本化された中等教育へと再編されることによって、ジェンダー秩序がどのように変化したのかを、地域差を視野に入れながら、地域横断的に明らかにしようとするものである。その際に注目するのは高等学校教育であり、男女共学や男女別学の問題に着目しながら、旧制の中学校・高等女学校から新制の高等学校への転換にともなうジェンダー秩序の再編を考察したいと考える。

2. 研究の目的

本研究は、戦後教育改革によって再編された中等教育に焦点を絞って、その過程においてどのようなジェンダー秩序が構築されたのかを、実証的かつ具体的に解明することを目的としている。戦後、中等教育は男女別学体制から男女共学体制へと転換し、教育機会の男女平等が達成された。それは性別によって大きく異なっていた戦前の教育のあり方に大きな転換をもたらすものであり、同時に、教育とジェンダーをめぐる新たな関係性の成立を意味していた。いったい戦後の中等教育で構築されたジェンダー秩序とはどのようなものだったのか、そして社会的状況の変化によっていかに変容していったのか、あるいは制度的変化をこうむりながらも、戦前から戦後へと何が継承されていったのか。これらの問題を 1960 年までを射程に入れて歴史的に解明することが本研究の目的である。

高等学校は主に公立と私立からなるが、公立学校では、全国レベルでの教育改革に規定されながらも、各地域の独自の課題に対処しつつ制度的改革が行われ、地域の独自性を反映した教育実態が生み出されていった。また公立学校改革には私立学校の存在も大きな影響を与えており、両者を視野に収めて研究をする必要がある。そこで本研究では、それぞれの地域特性を考慮にいれながら、旧制の中学校・高等女学校をそのまま別学の高等学校とした地域、共学化した地域（その中には、旧制の中等教育機関を統合して男女共学の高等学校とした地域と、旧制の中等教育機関をそれぞれ男女共学の高等学校へと転換した地域がある）男女共学の高等学校を設立しつつも前身校を反映させながら各高等学校に男女別定員を設けた地域を取り上げ、それらの地域において教育がいかに変容したのか、その解明に取り組んでいくことにしたい。その際、制度的改変だけでなく、男女交際・生徒会活動・クラブ活動などのあり方が、男女別学校や男女共学校においてどのようにとらえられ、実施されていたのか、また校訓・校歌・校旗・制服などの学校の表象や同窓会組織が、ジェンダーの構築にあたってどのような役割を果たしたのかも検討する。そのことを通して、戦前から戦後にかけて何が継承され、どのような点において変革が行われたのかを考察することとする。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者 1 人と研究分担者 6 人だけでなく、他に 4 名の研究協力者の協力も得て行う共同研究である。総計 11 名は 3 つの班、すなわち旧制の中学校・高等女学校をそのまま新制の男女別の高等学校とした地域、完全に男女共学化した地域、男女共学化した前身校を反映させながら男女別定員を設けた地域、の 3 つの地域を研究する班に分かれて、男女共学 / 男女別学の制度化のありようや教育実態を解明する。地域によって史料の残存状況には大きな相違があるが、学校史、学校新聞、同窓会誌、地方新聞や全国紙の地方版、都道府県議会議事録などに掲載された、高等学校教育に関するさまざまな記述や記事を主な史料として用い、歴史研究を進めていくことにしたい。そして随時、研究会を開催して相互に研究情報を交換するとともに、研究代表者が研究分担者や研究協力者の研究の進捗状況をとりとまとめ、研究情報の共有化を図る。

これらの 3 つの研究班は、いかにして男女共学が実現したのか、あるいは男女別学が維持されたのかというメカニズムを考察するとともに、男女共学 / 男女別学という教育実態の相違がもたらされた要因は何だったのか、また新制高等学校の成立によってジェンダーのありようにどのような変化が生じたのかを明らかにするために、組織するものである。各自はこれらの研究班に分かれて研究に取り組みつつ、戦後教育改革における中等教育の再編がジェンダー観に何をもちたらし、どのようなジェンダー秩序が戦後の高等学校教育において成立したのか、そして 1950 年代における政治的状況の変化に応じて、それがどのように変容していったのかを、総体的に考察する。また、男女共学 / 男女別学という制度的な変化だけでなく、男女交際・生徒会活動・クラブ活動などのあり方、校訓・校歌・校旗・制服などの学校の表象、同窓会組織も検討し、それぞれの研究課題に取り組む。

4. 研究成果

本研究は、戦後教育改革によって再編された中等教育に焦点をあてながら、その過程においてどのようなジェンダー秩序が構築されたのかを、実証的かつ具体的に解明することを目的と

している。その際に注目するのは、戦前の男女別学体制から戦後の男女共学体制への転換であり、旧制の中学校・高等女学校をそのまま新制の男女別の高等学校とした地域、完全に男女共学化した地域、男女共学化しつつも前身校を反映させながら男女別定員を設けた地域の3つに分けて、研究を進めていった。ただしすべての都道府県を対象に研究を行うことは不可能なので、特徴的な地域として、札幌市、青森県津軽地方、福島県、群馬県、東京都23区、京都市域、大阪府、和歌山市、神戸市、福岡県久留米市、熊本市、鹿児島市を取りあげた。その結果、明らかになったことは以下の通りである。

(1)青森県津軽地方・福島県・群馬県は戦前の男女別学を継承した、男女別の高等学校が誕生した地域であるが、同じく男女別学といっても、その内実には大きな相違が存在していた。青森県津軽地方では、別学体制を維持した学校や戦後別学校として新設された学校が存在したが、それだけでなく、戦後共学化し、それが維持された学校や、後に共学校から別学校へと変化した学校が存在している。群馬県では、旧制中学校を普通科の新制男子高等学校とすることに強いこだわりがあり、実質的な男女共学の公立高等学校はほとんどないのが実情であった。そしてこの傾向は現代においても見ることができる。福島県では、市部で別学校、郡部で共学校と別学校が設置されたが、別学校の中から共学化したものが一部あるものの、基本的には別学校が主流であった。

そしてこれらの地域において男女別学が存続したのは、端的に言えば、戦前からのジェンダー観が継承され、男女共学が歓迎されなかったからである。したがって、男女共学/男女別学をめぐる議論もさほど活発ではなく、戦前からのジェンダー秩序に対する異議申し立てもあまり見られなかった。

(2)札幌市・京都市域・大阪府・和歌山市・神戸市・福岡県久留米市・熊本市・鹿児島市は男女別学から男女共学へと転換したところである。共学への転換にあたっては、その是非をめぐって活発に議論が繰り広げられたが、というのも、男女別学になじんでいた当時の人々は、男女共学の実施に対して、男女の学力差への懸念、風紀問題の発生や「男らしさ」「女らしさ」の喪失に対する危惧の念を抱いていたからである。にもかかわらず、共学へと転換したのは、地方軍政部の強引ともいえる共学化への強い後押しや小学区制の実施、戦災による校舎の焼失、公立高等学校の男女共学化を補完する私立の男女別学校の存在といった要因が存在していた。これらの要因が複雑に絡み合いながら男女共学が実現したのであり、共学化のプロセスには、それぞれの地域がおかれた政治的社会的状況や中等教育をめぐる歴史的文化的状況の相違が反映しており、そこに各地域の独自の展開を見てとることができる。

ところで共学化にあたっては、軍政部の圧力が多かれ少なかれ存在していたが、一旦共学が成立してしまえば比較的スムーズに維持され、別学に戻ることはなかった。ただ、占領が解除された1952年になると共学に対する不満の声が議会などであがりはじめ、共学の問い直しが一部ではなされている。そして小学区制から中学区制への移行が1954年という早い時期に行われた熊本市に典型的にみられるように、中学区制になると、一応共学が維持されてはいたが、別学であった前身校を継承する形で、男女数の極端な偏りが見られるようになった。他方で京都市域では厳格な小学区制が布かれていたため、熊本市のような問題は起きなかったが、京都市域には男女別学の私立高等学校が多数存在していたために、共学に対して不満をもつ層の生徒たちを私学が吸収していたと考えられる。なお、学区制のありようや私立の別学校の存在が共学に与えた影響は、久留米市や鹿児島市においても見てとることができる。

また神戸市では旧制の中学校・高等女学校が統合して共学化したケースと、それぞれの旧制の学校が共学化したケースとが混在していた。というのも、戦災による校舎の焼失をうけて、校舎をいかに確保するのかがということが優先課題であり、兵庫軍政部の強い指導のもとで、共学が実施されたという経緯があったためである。校舎の焼失を引き金とした、旧制の中学校・高等女学校の統合による共学化は、和歌山市においても見られる。

共学の実施は、別学になじんでいた人々からすれば大きな変化であったが、当初懸念された男女の学力差や風紀問題の発生に対する危惧は杞憂であったことが、共学が浸透していく過程で判明していった。また共学の受け止め方という点に関していえば、総じて、生徒や教師が比較的スムーズに共学を受け入れていたのに対して、親の側には抵抗感が存在していた。ただ、共学になれば、特性が異なる男女が協力しあってそれぞれの特性を伸ばしていくことができる、「男らしさ」や「女らしさ」の伸張には異性が存在した方が好都合である、という考え方が表明され、そういう意味では、男女共学になってもジェンダー観には大きな変更もたらされなかったといえるだろう。

(3)東京都23区では、前身校を反映させた男女別定員がひかれており、共学とはいいながら、男女別学であった前身校の校風が濃密に残存していた。その結果、たとえば男子校だったところでは、男子校という枠組みを維持したまま、いかにして女子をその枠組みに順応させるか、あるいは男子とは別の教育を受けさせるかが問題になっている。なお、男女別定員がひかれた地域に限らず、共学化した地域では、戦前から継承された男子を優位とするジェンダー秩序が存在しており、男子への教育を標準としたうえで女子にそれへの適応を求める、あるいは女子用の教育を別に想定するという考え方が存在していた。

(4)以上のように、旧制の中学校・高等女学校から新制の高等学校への移行に際して、男女共学／男女別学をめぐる様々な議論が行われ、多様な実施状況が生み出されていった。そして言うまでもないことであるが、それぞれの地域における中等教育をめぐる歴史的文化的状況の相違や、戦後教育改革に大きな影響力をもった地方軍政部の方針の違いによって、新制高等学校の成立のありようは大きく異なり、男女共学／男女別学をめぐる上記の3つの相違が生み出されていったことがわかる。そして1950年代に入ると、占領からの独立という政治的状況の変化にともない、戦後初期の改革の問い直しが始まり、それが高等学校における男女共学／男女別学にも変容をもたらしていった。しかし、戦前から戦後、占領下から独立という政治体制の大きな変化、そして男女共学の成立にもかかわらず、ジェンダー観には根本的な変化がみられなかったことは特筆すべきことである。

中等教育は、国が定めた教育制度や教育政策に規定されながらも、具体的な教育政策の展開は地域によって大きく異なっており、個々具体的に男女共学／男女別学の実態を明らかにしていくことが、今後必要であると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

前川 直哉、男性同性愛の戦後史研究とジェンダー、歴史評論、査読無、796号、2016、61 - 74

土田 陽子、地方における高学歴女性のライフコース選択 県立和歌山高等女学校の事例から、和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要、査読無、37号、2016、1 - 16

DOI:10.19002/AN00051020.37.a1

今田 絵里香、ジュニア小説における性愛という問題、成蹊大学文学部紀要、査読無、52号、2017、23 - 46

石岡 学、高度成長期のテレビドキュメンタリーにおける「青少年問題」の表象 NHK「日本の素顔」「現代の記録」「現代の映像」を対象に、教育社会学研究、査読有、101集、2017、69 - 87

前川 直哉、大正・昭和の男性同性愛者たちが語った「悩み」とその解決、青少年問題、査読無、668号、2017、18 - 25

土田 陽子、戦後和歌山における私立女子専門学校の設立と経営移管 和歌山女子専門学校とその附属校に注目して、和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要、査読無、39号、2018、39 - 58

DOI:10.19002/AN00051020.39.a39

〔学会発表〕(計11件)

前川 直哉、東京、福島、双葉郡 「中央／周縁」の非対称な構造という視点から、日本解放社会学会、2016

石岡 学、高度成長期のテレビドキュメンタリーが描いた「世代間断絶」：NHK「日本の素顔」「現代の記録」「現代の映像」を対象として、日本社会学会、2016

小山 静子、「作るもの」「育てるもの」としての「よい」子ども 「健全育成」と母子保健法、比較家族史学会、2017

石岡 学、「高校全入運動」言説における能力観の相剋、日本教育社会学会、2017

前川 直哉、男性同性愛者が文通欄で求めた交際のかたち、日本解放社会学会、2017

前川 直哉、「兄貴」から「恋人」へ：戦後日本における男性同性愛者と親密性、ジェンダー史学会、2017

林 葉子、International Emancipation Movements for Japanese Prostitutes around 1900, Berkshire Conference, 2017

石岡 学、高度経済成長期日本のTVドキュメンタリーにおける「青少年問題」、淡江大学外国語文學院・同志社大学文化情報学部国際フォーラム、2018

林 葉子、Maurice Gregory's Visit to Japan and Its Impact on Japanese Movement against Licensed Prostitution, International Federation for Research in Women's History, 2018

林 葉子、性管理政策としての公娼制度とその存廃をめぐる論争、政治思想学会、2018

土田 陽子、女学校研究から見えてきたこと、これから見ようとしていること、教育の歴史社会学コロキウム、2019

〔図書〕(計11件)

小山 静子 他、岩波書店、学校のポリティクス、2016、334

小山 静子、柏書房、通信女学講義／日本新婦人／婦人世界【復刻版】解題、2017、16

林 葉子、大阪大学出版会、性を管理する帝国 公娼制度下の「衛生」問題と娼娼運動、2017、536

今田 絵里香 他、法律文化社、映画は社会学する、2016、256

前川 直哉、作品社、男性同性愛者の社会史 アイデンティティの変容／クローゼットへの解放、2017、234

今田 絵里香 他、風間書房、文化現象としての恋愛とイデオロギー、2017、328

今田 絵里香 他、岩波書店、学問としての展開と課題(教育社会学のフロンティア 1)、2017、323

土田 陽子 他、ミネルヴァ書房、青少年の性行動はどう変わってきたか、2018、288

小山 静子 他、日本経済評論社、子どもと教育 近代家族というアリーナ、2018、294

前川 直哉 他、文藝春秋、文藝春秋 2019 年の論点 100、2018、287

今田 絵里香 他、新曜社、変貌する恋愛と結婚 データで読む平成、2019、286

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 石岡学

ローマ字氏名: ISHIOKA, Manabu

所属研究機関名: 同志社大学

部局名: 文化情報学部

職名: 助教

研究者番号(8桁): 00624529

研究分担者氏名: 今田絵里香

ローマ字氏名: IMADA, Erika

所属研究機関名: 成蹊大学

部局名: 文学部

職名: 准教授

研究者番号(8桁): 50536589

研究分担者氏名: 土田陽子

ローマ字氏名: TSUCHIDA, Yoko

所属研究機関名: 帝塚山学院大学

部局名: 人間科学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 30756440

研究分担者氏名：土屋尚子
ローマ字氏名：TSUCHIYA, Naoko
所属研究機関名：大阪芸術大学
部局名：芸術学部
職名：講師
研究者番号(8桁): 70710599

研究分担者氏名：林葉子
ローマ字氏名：HAYASHI, Yoko
所属研究機関名：大阪大学
部局名：大学院文学研究科
職名：招へい研究員
研究者番号(8桁): 60613982

研究分担者氏名：前川直哉
ローマ字氏名：MAEKAWA, Naoya
所属研究機関名：福島大学
部局名：総合教育研究センター
職名：特任准教授
研究者番号(8桁): 20739156

(2)研究協力者

研究協力者氏名：須田 珠生
ローマ字氏名：SUDA, Tamami

研究協力者氏名：中山 良子
ローマ字氏名：NAKAYAMA, Yoshiko

研究協力者氏名：日高 利泰
ローマ字氏名：HIDAKA, Toshiyasu

研究協力者氏名：和崎 光太郎
ローマ字氏名：WASAKI, Kotaro

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。